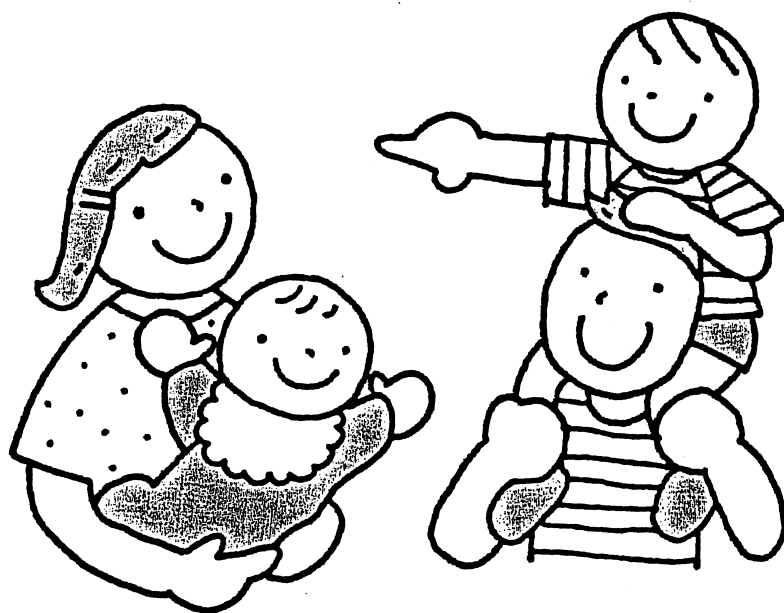


南区基本計画推進事業
子育てについてのアンケート
報告書

平成16年10月



南区まちづくり推進会議
南区子ども問題連絡会
南区社会福祉協議会
南区役所

はじめに

「南区子ども問題連絡会」は、平成 12 年 1 月に「児童虐待の早期発見と初期対応体制の確立」を第一の目的とするネットワークとして設立されました。その後、児童虐待の問題だけでなく、子育てに関わるすべての問題にテーマを広げ、メンバーとして子育てサークルの方々なども加えるとともに、運営も行政主導から民間主導に徐々にシフトするなど、会の発展・充実の可能性を広げてきました。

また、南区社会福祉協議会においては、平成 15 年 3 月策定の「地域福祉活動計画」の中に子育て支援事業の推進を重点課題として掲げ、子育て MAP（第一版・改訂版・公園たんけんのまき）の発行や、ホームページの開設など情報発信活動をはじめネットワーク活動、相談活動などに力を注ぐようになってきました。

一方、行政サイドにおいても、「南区基本計画」の推進が本格化する過程で、重点プロジェクトの一つである「暮らしを支える地域福祉のネットワーク」づくりの一部として、南区独自の「子育て支援」施策を模索する動きが見えてきました。

そのような中、メンバーの間では、まず南区という地域で、実際に子育てをしている人達が何に困り、どのような支援・サービスを求めておられるのかを知り、また既に子育てを経験した年代の人達が子育てに関してどのように思い、どのような支援ならしてみてもよいと考えておられるのかを知ることが必要ではないか、という声が高まってきました。そしてそれらの人達の思いや考えを実際に直接知る方法として、今回の『子育てアンケート』を実施することになりました。

回収したアンケートの中には、子育ての現状に関するいろいろな思いが書かれていました。子育てのしんどさとともに、「こんなことが楽しかった」「こんな言葉かけがうれしかった」などの声も寄せられ、今も昔も変わらない一面もみえてきました。人は人と関わることで傷つくこともあり、しかし人は人との関係性の中で傷を癒せたり、受け入れられたり励まされることで力を出せるともいいます。自分一人で育てているのではない、周りの人に温かく見守られているのだという思いが持てることで、どれだけ子育てのしんどさが軽減されたり、楽しみに変わっていくのでしょうか。そして、子どもたちは人と人とのつながりの中で、さまざまなことを経験しながら、人と関わる力、人との関係を築いていく方法や知恵を学んでいくのだと思います。親だけが子どもと向き合うのではなく、いろいろな人との関わりの中で子どもを育てることで、親も子もいきいきと過ごせるのだと、このアンケートの結果は力強く私たちに伝えていきます。

また、アンケートを通じて「子育て支援をしてみたい」という区民の方々の声も多く寄せられ、とても心強く感じています。子育てはしんどいこともあるけれど、南区で子育てをしてよかったと感じていただけるような、ほっとしたり心安らぐ時間をもてる、そんな「子育て支援事業」をつくっていくために活かしていきたいと思っています。

このアンケートの結果が南区で子どもに関わるすべての方々にとって、現状を知るよい手がかりとなることを期待しています。

目次

1	はじめに	1
	(1) 調査目的	
	(2) 調査主体	
	(3) 調査対象	
	(4) 調査方法	
	(5) 回収状況	
	(6) 調査実施期間	
2	調査結果の概要	
	(1) 少子化問題への意識	2
	(2) 子育ての状況	
	就学前児童の子育ての状況	5
	低学年児童の家での過ごし方	9
	(3) 子育てについての悩みや不安(就学前・低学年)	
	悩みや不安の有無とその内容	10
	悩みや不安の相談	12
	(4) 子育て情報入手ルート	14
	(5) 子育て支援・相談事業	
	子育て支援事業	17
	相談機関	20
	(6) 一般の方の子育て支援に関する意識状況	
	子育て支援への関心度	23
	子育て支援の意向	24
3	調査結果概要のまとめ	27
	・ 参考資料	
	アンケート調査用紙	
	・ 就学前	31
	・ 小学校低学年	39
	・ 一般	47

子育てについてのアンケート調査結果の概要について

1. はじめに

(1) 調査目的

本アンケート調査は、「南区基本計画」と「南区社会福祉協議会地域福祉活動計画」の重点課題である子育て支援の取組を具体的に進めていくにあたって、現在、就学前の乳幼児や小学校低学年の児童をもつ保護者、そして子育てを終え地域で活動する人たちが、子育ての状況や子育てに関する意識、既存の子育て支援・相談事業に対する意識、さらには子育て支援に対するニーズ等をどのように感じているかを明らかにし、今後の取り組みの参考にすることを目的として実施する。

(2) 調査主体

南区まちづくり推進会議
南区子ども問題連絡会
社会福祉法人 京都市南区社会福祉協議会
南区役所

(3) 調査対象

就学前：就学前の乳幼児をもつ保護者
低学年：小学校低学年（1～3年生）の児童をもつ保護者
一般：子育てを終え地域で活動する区民

(4) 調査方法

就学前：) 保健所の乳幼児健診の場で調査票を配布し、後日郵送により回収
) 保育所・児童館の協力を得て、利用者へ調査票を配布し回収
低学年：小学校で児童に調査票を配布し回収
一般：学区自治連合会及び学区社会福祉協議会の協力を得て対象者を抽出し、調査票を配布・回収

(5) 回収状況

	配布部数	有効回収数	回収率(%)
就学前：	600	353	58.8
低学年：	300	258	86.0
一般：	300	180	60.0
合計	1,200	791	65.9

就学前では回収された調査票の多くは保育所・児童館の利用者からのものであり、また、一般では地域の自治会・町内会活動や福祉活動、住民組織の活動に関係する人が対象の多くを占めた。

(6) 調査実施期間

調査票の配布：平成15年12月 1日～平成16年 1月16日
調査票の回収締め切り：平成16年 2月 2日

2. 調査結果の概要

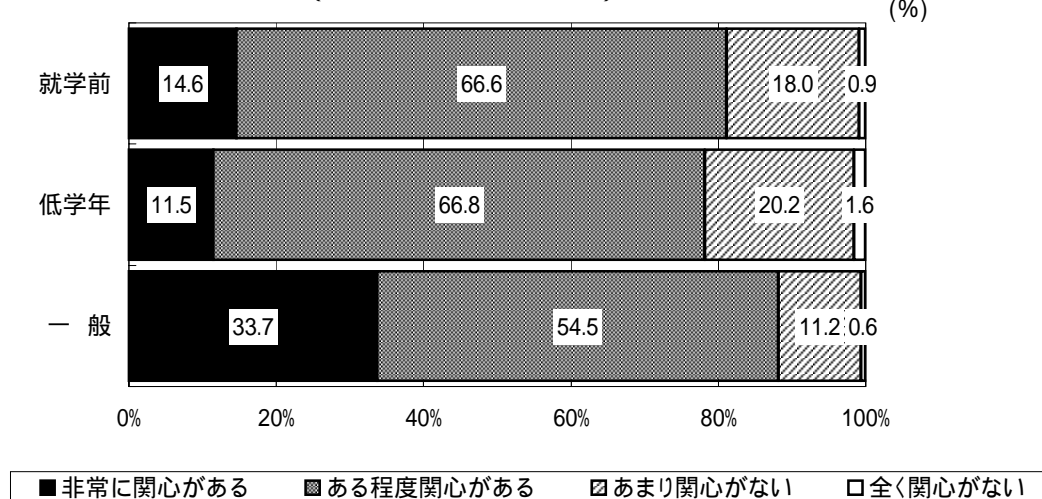
(1) 少子化問題への意識

出生率低下の原因は「経済的負担」がトップ

子育てのための公的な経済的支援、仕事と子育てが両立するような社会環境づくりと公的支援の充実が求められている

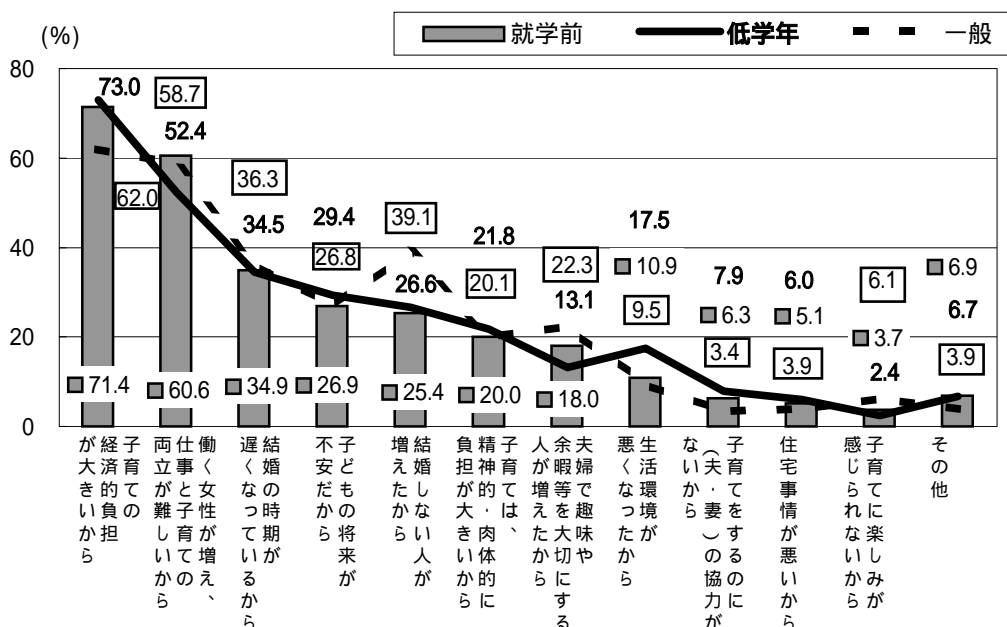
- ・ 少子化問題への関心度については、就学前の子どもをもつ親（以下「就学前」）、小学校低学年の子どもをもつ親（以下「低学年」）、では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」をあわせた「関心者層」は約80%、子育てを終えた一般人（以下「一般」）は約90%という結果であった。
- ・ 一般では「非常に関心がある」が就学前、低学年の2倍になっており、一方低学年の20代では、「あまり関心がない」と「全く関心がない」をあわせた「無関心者層」が約55%という特徴がみられる。（ただし、一般は地域の自治会・町内会活動や福祉活動に参加している人が多く含まれていることが予測されるので、関心層が多くなる傾向にある。）

少子化問題への関心度（就学前・低学年・一般）

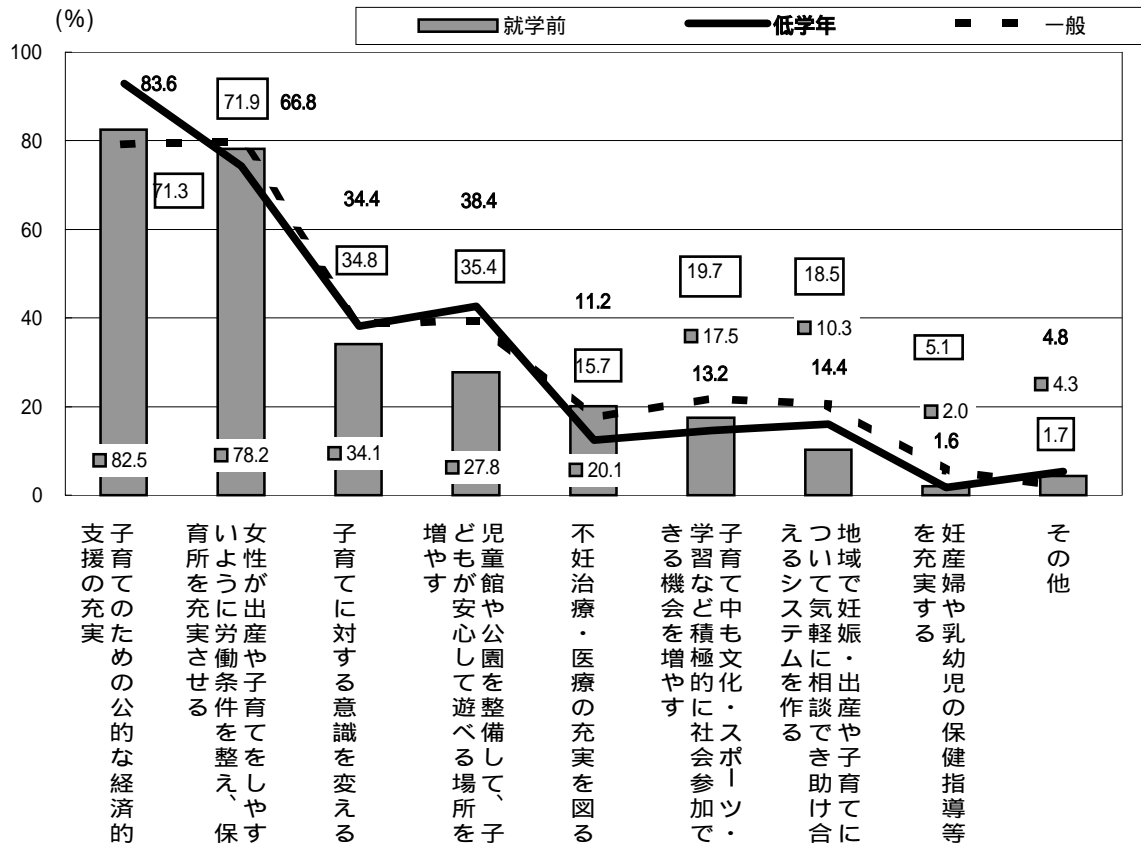


- ・ 出生率低下の原因については、「子育ての経済的負担が大きいから」と考えている人が就学前、低学年、一般とも60%から70%と高く、少子化対策として「子育てのための公的な経済的支援の充実」を求める声が70%から80%という結果につながっている。
- ・ 次いで、原因の2番目は、「働く女性が増え、仕事と子育ての両立が難しいから」となっており（約60%）、少子化対策の2番目の「女性が出産や子育てがしやすいように労働条件を整え、保育所を充実させる」ことを求める声につながっている（約70%）。
- ・ 低学年、一般では、「児童館や公園を整備、子どもが安心して遊べる場所を増やす」という声が約40%になっている。また、「不妊治療・医療の充実を図る」という声が、就学前が約20%と、低学年（約10%）、一般（約15%）よりやや高く、就学前の20代で比較的高い数値を示した。若い世代で不妊に悩む人が少なからず存在することが予測されよう。
- ・ 「その他」の自由回答では、社会環境の悪化や行政の立ち遅れを指摘する意見とともに、「欲しくても子どもができない（不妊に悩む）人が増えている」という意見が多いことが目についた。

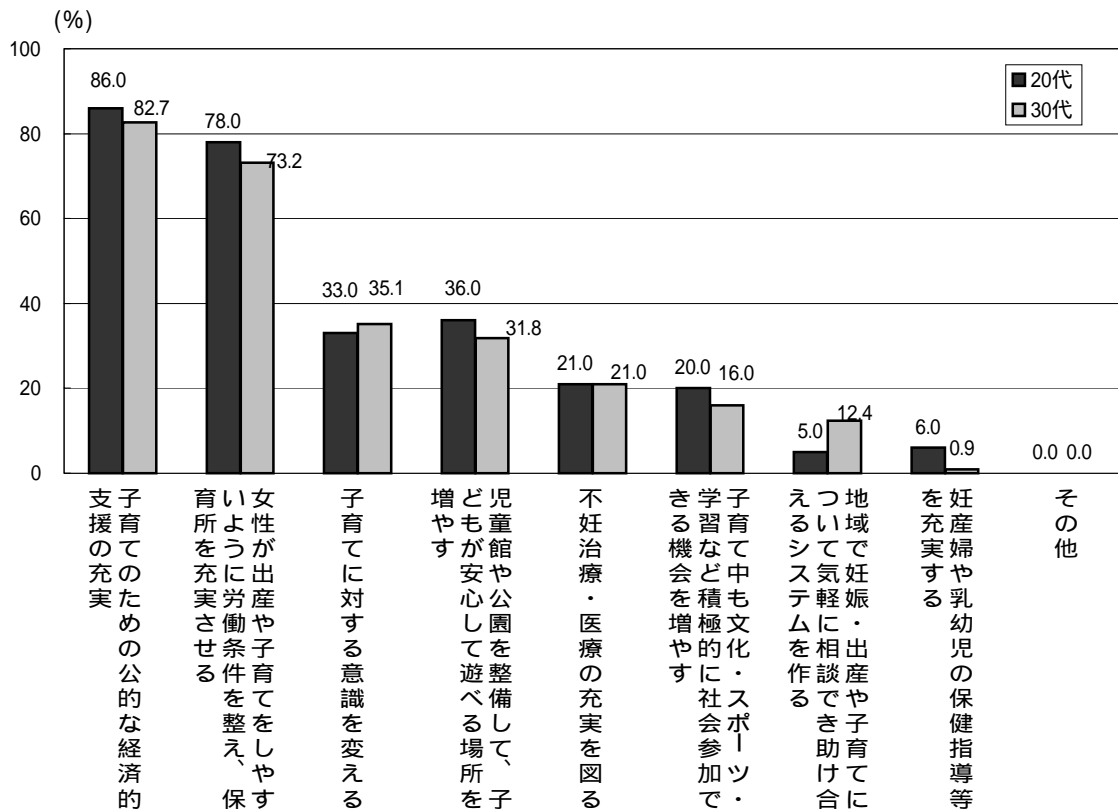
出生率低下の原因（就学前・低学年・一般）



少子化対策（就学前・低学年・一般）



少子化対策（20代・30代）



(2) 子育ての状況

就学前児童の子育ての状況

昼間の保育は、保育所が約65%が利用、幼稚園が7.5%、家族・親族が約30%でそのほとんどが「妻」

4人に1人は近くに育児の協力者がいない

夫を育児の協力者としてあげた人は少ない

協力者がいない人は、いる人と比較して、当然ではあるが緊急時には社会的な支援を利用したいと考えている

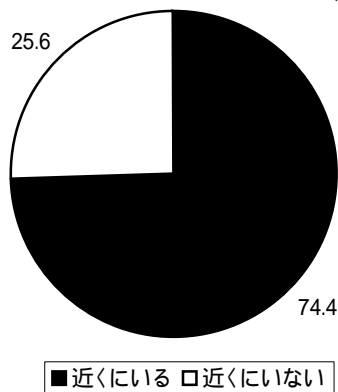
ファミリー・サポートは4人に1人は利用してみたいと思っているが、実際はあまり利用されていない

乳幼児クラブや子育てサークルの利用した(している)人は近くに協力者がいる人が多い

- ・ 平日の昼間の保育については、保育所64.6%、幼稚園7.5%、あわせて約70%が施設、約30%が家族・親族となっており、そのほとんどが「妻」である(27.7%)。(「就学前」の半分以上が保育所を通じて配布・回収したため、保育所が高くなるのは当然の結果ではある)。
- ・ 育児の協力者については、「近くにいる」人が約75%、「近くにいない」人が約25%、4人に1人が近くに育児の協力者がいないと答えている。また、協力者が夫と答えた人は、全体の14.8%にとどまり、何らかの理由で協力者となっていない現状がうかがえる。
- ・ 子育て支援事業を利用した人の内、近くに育児の協力者がいない人では、「利用したことのある(している)事業」としては「学童クラブ事業」「乳幼児クラブ・子育てサークル」が両者とも40%と高く、「利用してみたい事業」としては、近くに協力者いる人との比較も加えると「一時保育」(「いない」46.0% 「いる」34.5%)「病気回復期の保育」(「いない」38.0% 「いる」25.2%)「トワイライトステイ」(「いない」20.0% 「いる」8.6%)の順となった。「ファミリー・サポート」については「いる」「いない」とも約25%で、4人に1人が利用してみたい事業としてあげている。
- ・ 子育て支援事業を利用した人の内、近くに育児の協力者がいる人で「利用したことのある(している)事業」として「乳幼児クラブ・子育てサークル」が約70%と高く、「いない」人との比較においても(約45%)高い数値となっている。
- ・ 近くに育児の協力者がいる人と協力者との距離関係では、「同居」が約25%、「歩いて行ける距離」約30%、「自転車で行ける距離」約15%という結果となった。
- ・ 病気や急用等で家族が子どもをみられない時の対応では、「同居していない家族」が約85%と他と比べて突出している。

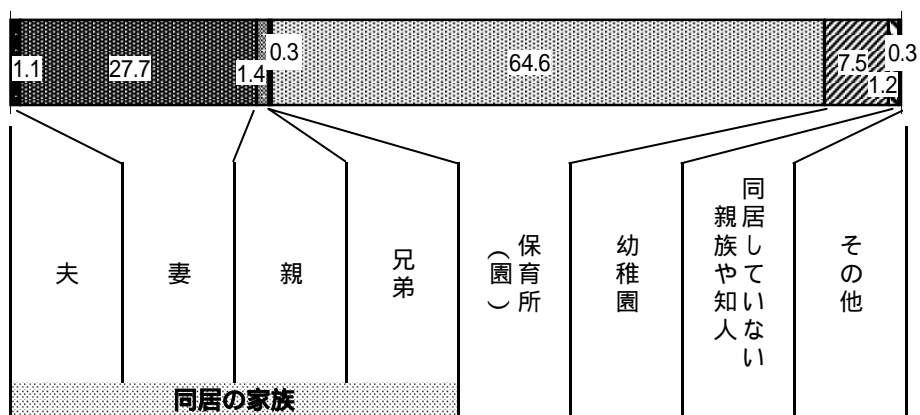
就学前児童の子育ての状況（平日の昼間の保育の協力者）

(%)



就学前児童の子育ての状況（保育の協力者）

(%)



就学前児童の子育ての状況

（保育の協力者の有無と利用したことのある（している）事業と利用してみたい事業）

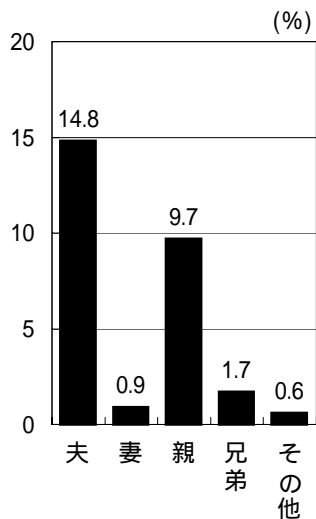
(%)

(%)

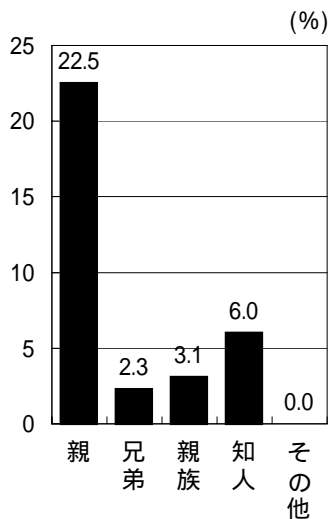
	利用したことのある(している)支援事業								利用してみたい支援事業							
	サンプル数	学童クラブ事業	ショートステイ	トワイライトステイ	一時保育	病気回復期の保育	ファミリー・サポート	乳幼児クラブ・子育てサークルへの支援	サンプル数	学童クラブ事業	ショートステイ	トワイライトステイ	一時保育	病気回復期の保育	ファミリー・サポート	乳幼児クラブ・子育てサークルへの支援
合計	136	28.7	1.5	-	26.5	2.2	4.4	62.5	189	37.6	9.0	11.6	37.6	28.6	24.9	14.3
協力者がいる	95	23.2	1.1	-	25.3	-	4.2	70.5	139	38.8	9.4	8.6	34.5	25.2	25.2	15.1
協力者がいない	41	41.5	2.4	-	29.3	7.3	4.9	43.9	50	34.0	8.0	20.0	46.0	38.0	24.0	12.0

就学前児童の子育ての状況（近くにいる協力者との距離・関係）

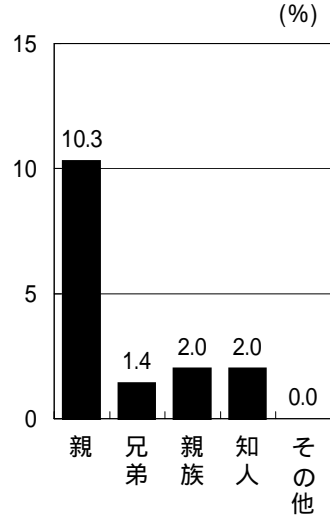
【同居】



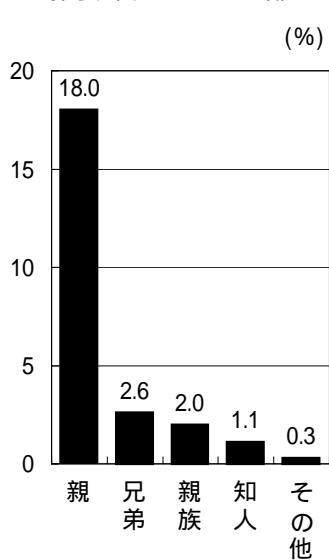
【歩いていける距離】



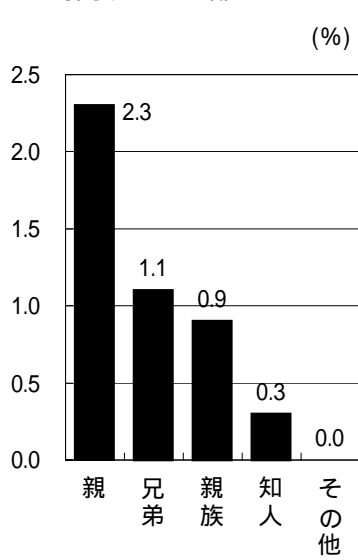
【自転車でいける距離】

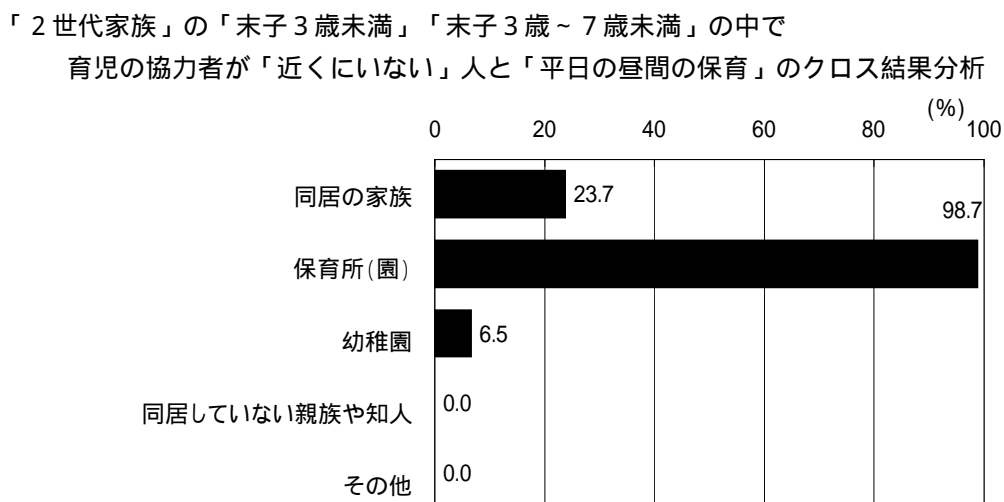
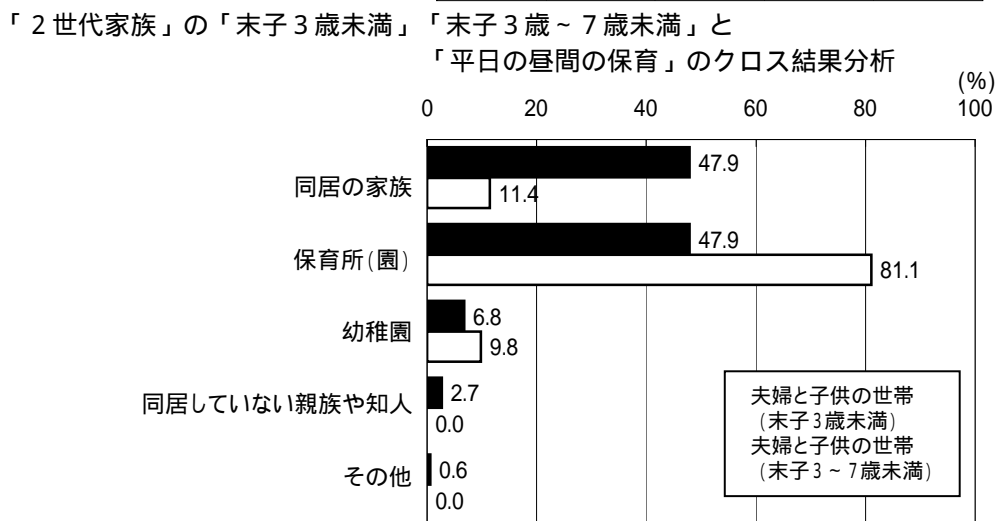
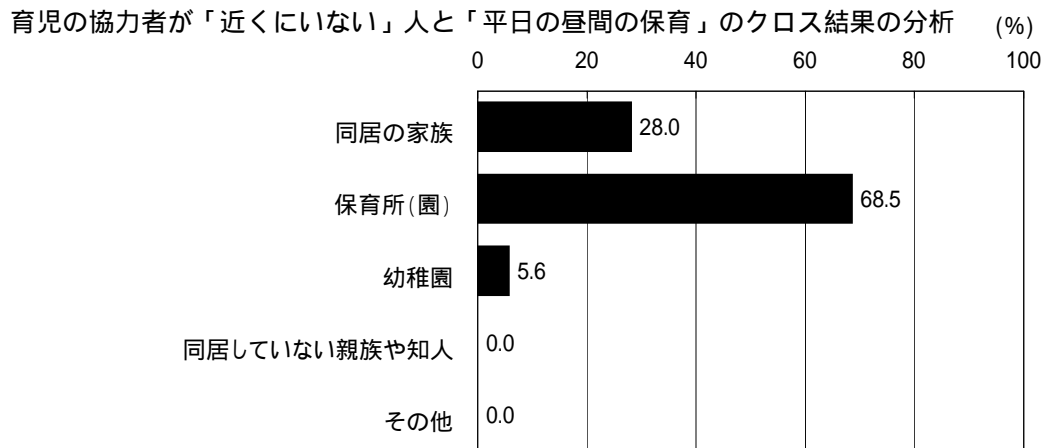
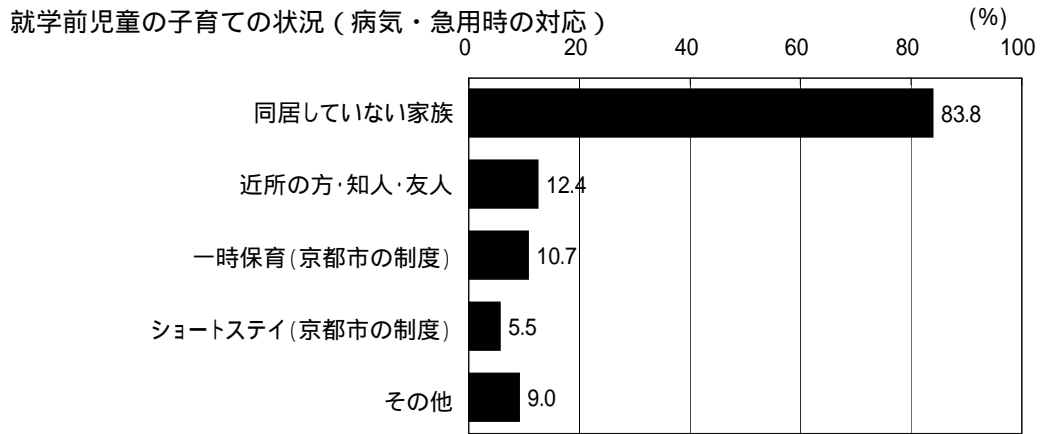


【車で1時間以内でいける距離】



【車で1時間以上の距離】





低学年児童の家での過ごし方

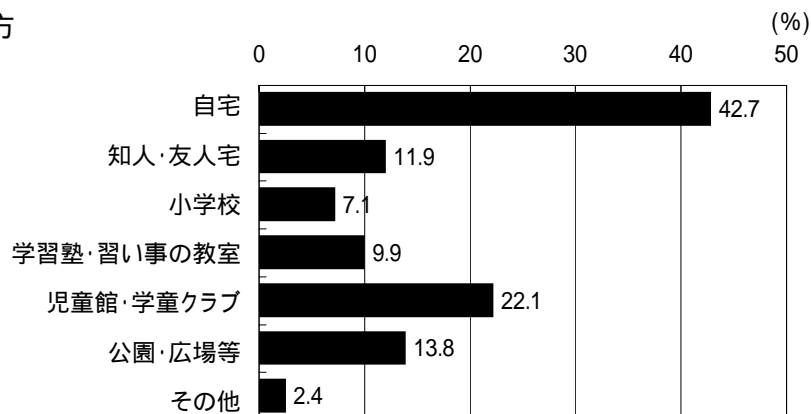
平日の放課後も休日も自宅で過ごす児童が多い

その反面、外で遊ぶ児童は激減している

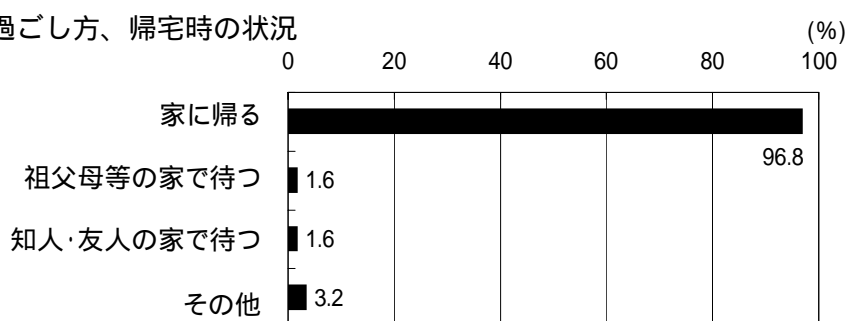
学童クラブを利用している児童は、終了後すぐに家に帰る児童がほとんどで、その内の3割が帰っても大人がいない家庭となっている

- ・ 平日の放課後、児童が主にどこで過ごしているかについては、約40%が「自宅」、約20%が「児童館・学童クラブ」という結果となった。
- ・ 学童クラブ終了後はほとんどの児童が「家に帰る」(96.8%)が、その内、家庭に大人がいない家庭が約30%（「兄弟が在宅」14.8%「家族は不在で帰りを待つ」13.0%）という結果となった。
- ・ 休日の児童の過ごし方については、「自宅」が約80%と圧倒的に多く、「公園・広場」は約15%という結果になった。（質問の回答を1つに限定したため、時間の比較等により「自宅」に回答が集中したことも考えられるが、傾向としては「自宅」で過ごす児童が多いといえよう）。

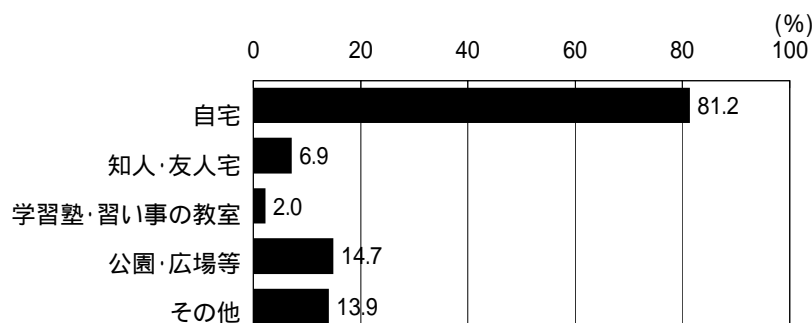
平日の放課後の過ごし方



学童クラブ終了後の過ごし方、帰宅時の状況



休日の過ごし方



(3) 子育てについての悩みや不安(就学前・低学年)

悩みや不安の有無とその内容

悩みや不安があると答えた人の内(就学前87.4%, 低学年82.0%)子育てに関しては, 就学前, 低学年とも「子どものしつけ」について悩んだり, 不安に思っている人が多い

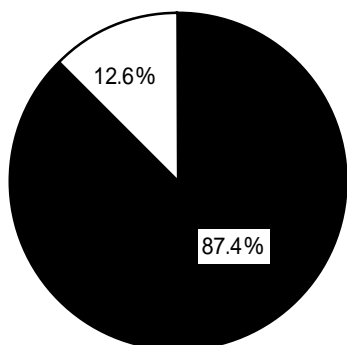
次いで, 就学前では「子どもの発育・発達」低学年では「教育・ならいごと」

子育てについての悩みや不安に関しては, 就学前では「子育てが精神的負担に感じる」, 低学年では「経済的なゆとりがない」がトップ

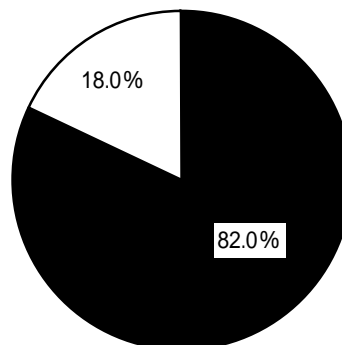
- ・ 子育てについて悩みや不安があると答えた人は, 低学年で82.0%, 就学前で87.4%という結果になった。
- ・ 悩みや不安の内容については, 「子どものしつけ」が低学年, 就学前ともに70%以上でトップとなっている。次いで, 就学前は「子どもの発育・発達」が49.0%, 低学年は「教育・ならいごと」が55.2%となった。
- ・ 低学年の約30%が「子どもの遊び場がない・少ない・わからない」と答えている。
- ・ 子育てについての悩みや不安については, 「経済的なゆとりがない」が低学年で48.7%(1位), 就学前で41.8%(2位), 「子育てが精神的に負担に感じる」が就学前で45.5%(1位), 低学年で35.0%(3位), 「まわりの人とのつきあい」が低学年で41.1%(2位), 就学前で31.3%(3位)と上位三つに就学前と低学年の違いが表れた。
- ・ 「まわりの人とのつきあい」と答えた人の内, 就学前では「近所」41.9%, 「親同士」37.1%, 「祖父母等」35.5%となり, 低学年では「近所」50.0%, 「親同士」48.1%, 「祖父母等」13.5%となった。就学前では低学年に比べて「祖父母」が高いのが特徴である。
- ・ 「子育てが精神的に負担に感じる」と答えた人の内, 「なんとなくイライラする」が低学年で69.5%, 就学前で60.0%, 「自分の時間がとりにくい」が就学前で56.4%, 低学年で39.0%, 「子どもがかわいく思えない」が就学前で4.5%, 低学年で3.4%となった。就学前で「自分の時間がとりにくい」が高いのが特徴である。

悩み・不安の有無

【就学前】



【低学年】



■ある □ない